

平成10年7月(1998年) No. 391

OMC会員諸氏のご協力に感謝 — 第3回日本を縦断する映像発表会 — おかげで盛会のうちに無事終了しました

会長 合原一夫

3回目の映像発表会の日は朝から好天気でしたが、気温はうなぎのぼり、お昼前から30度を越す猛暑ぶり。梅雨も吹き飛んだ感じのある日でした。しかし観客の入りはよく、会場一杯の凡そ180名ほどの大盛会となりました。11時頃にはOMC世話役その他の方がかけつけて下さり、椅子並べなどの会場設営にご協力頂きました。上映は関世話役が一手に引き受けられ、自宅よりデジタルビデオデッキ、ミキサー、低音専用スピーカーその他機材一式を持ち込まれて担当して頂きました。司会は合原OMC会長が受持ちました。また受付には安居良枝会員が、場内照明係りには岡本氏等、OMCの皆さんの総力をあげてご協力頂き無事終了することができました。このOMCニュース紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

作品内容も、有村氏の「氷瀑」、上総氏の「十戒の山シナイ山」のOMC世話役の作品のほか、金子喜代子さんの「伝説の中に生きる町」や田淵千枝子さんの「艶」の両女流映像作家の作品、二十代の若き吉田博氏の「阿闍梨の背中」のドキュメンタリーなど、印象に残るいい作品が揃っていたと思います。第4回発表会は来年2月第一土曜日を予定しております。その節はまたご協力のほど、よろしく願いいたします。

7月例会のお知らせ

7月例会は25日・第4土曜日18時より、阿倍野市民学習センターにて。今月は高野山撮影会作品公開審査会を行いますので、撮影会参加者は是非作品をお持ちください。せっかく撮った映像に陽の目を見せてあげましょう。時間が許されれば一般作品も上映しますので一応持ってきて下さい。では、冷房の効いた例会場でお待ちしています。

6月例会のレポート

外は梅雨の最中で、例会日も朝から小雨でしたが、午後はどうやら降り止んだものの、何ともじめじめしたお天気模様、例会の集まりも心配されましたが、そこはビデオ好きな面々、定刻前より大勢の会員諸氏が集まり、何とOMC始まって以来？の25名の会員諸氏と見学者1名の計26名が参加、さしもの会場も他から椅子を調達して何とか座ってもらうほどの盛会となりました。作品も14本の多きに達し、上映も時間を気にしながらのうれしい悲鳴でした。今月の司会は関剛さん、書記は今回から新しくご協力頂くことになった安居利次さん、デッキ係は渡辺さん、受付係は増池さんにそれぞれお願いして会を進行いたしました。また今月より新しく山口禎夫さんが入会され拍手で迎えられました。

■新入会者：山口禎夫さん 〒567-0882茨木市元町2番17号（心齋橋）
電話 0726-22-2010 よろしく申し上げます。

■上映作品（今月の短評は安居利次さんです）

1. 風 関 剛さん 12分
35年前のフィルム時代のアニメ作品、背景の絵だけでもすごい枚数。それに主人公の顔の変化、口の動き、録画と言えども、数コマずつ撮っていくその根気と努力には頭がさがりました。当時のフォークソングと世相もうまくかみあわせられ社会風刺もきいています。こういう感性の上に今の関さんの作風があるのかと感心しました。
2. 「越中五箇山」辺りを訪ねて 増池 茂さん 14分
題名からすると、熊野社の祭りの「こきりこ節」がBGMに流れるところから始められると迫力のある映像になるのではないのでしょうか。それまでの山々のロングは合掌造りの家との間に入れられると、生きてくると思われます。すると丁度7分位になってうまくまとまりそうです。
3. 「ひるどき日本列島」裏舞台 安居 利次さん 12分
「裏舞台」とわざわざ言っているのに、本放送との対比は意味がありません、リハーサル風景よりも道路にケーブルを引いたり、音声さんのマイク扱い、調整の様子、屋外なのに照明さんの光のあてかた、時間がないとディレクターが必死になっている様子等をもっと撮るべきでした、と司会の短評と作者の反省事項。
4. 閻魔大王に御判をもらった 安居 良枝さん 6分40秒
平野の長宝寺で5月18日に、額に閻魔大王の御判をおしてもらい、と言う珍しい行事に参加した作品。三途の川を渡るのがフリーパスとは寺の宣伝も面白い、御主人の影響か絵と特殊効果の使いすぎに注意、と司会からアドバイス。

5. 色即是空 金子 博泰さん 3分50秒
五百羅漢の色々な顔が2-3秒の間かくで、雷光の点滅と共に表れ、その泣き笑いの石佛の表情、現世のものは即むなしいと言う本来の意味を表現するとすればBGMもちょっとそぐわない感じがします。でもこういう抽象で表現するのはむつかしいものです。

6. 水面上下 上総 修一郎さん 8分25秒
「水面をさかいにしてお互いに隣りの庭が気にかかる」。モチーフとしては面白い作品です。カメが水面から顔を出してあたりをうかがうカット、水陸両用のペンギンの生態、「上も下も住めば都」。ちょっと結論を出すのに時間がかかりすぎたという感はありましたが、楽しい作品でした。

7. ベトナム紀行 合原 一夫さん 14分40秒
合原さん特有の語り口、あきさせずに15分弱の画面をひっぱっていきます、海外旅行でも氏は民衆の中に入りその生活を追っていくので手持ちのPC7の対象にはうってつけです。単に異国趣味というのではなく社会主義国のドイモイ政策によって資本主義の波が入りこんでいる様子が肌で感じられる作品でした。

8. 鯛網ショー 有村 博さん 9分20秒
福山市鞆の浦の鯛網ショーの様子を記録された作品。現地の声とスーパーで全体を説明されています。養殖の鯛の実態が「この海には鯛しかいないのか」というスーパーで逆説的に表現されていて面白いと思いました。普段見慣れたお仲間の撮影ぶりの、一瞬も入っていて、そのガットに興味をそそられました。

9. なにわの春 那須 典彦さん 7分35秒
とにかく一枚一枚のカットは、すばらしくきれいです。数カットのつながりも、公式通りに展開しています、できれば全体を通して何かを表現してほしいです。前半のゆっくりした春、後半のあわただしい春（BGM的にも）もう少しカットが、伴っておれば春の時間経過がみているものに感じられるのではないかと思います。

10. 西近江路「高島町を訪ねて」 宮崎 紀代子さん 5分5秒
始めてナレーションを、入れたといわれていますが、なかなかしっかりしたナレです。他の会の撮影会で、とられた作品との事。雨で三脚は使いにくかったと思いますが、相手が動かない建物の場合はカメラの固定が必要条件です。俳句をやっておられる方らしく、ナレ原稿がしっかりしていました。

11. 晩秋の京ぶらり 森口 吉正さん 8分20秒
OMCでの上映は3回目との事ですが、これまでにかなり撮っておられるベテランとお見受けします。公式に忠実なカットつながりは、さすがと思われれます。強いていえば場面転換の意味を含められたのかいろんな植物を通しての川面の風情が多すぎるように思いました。御自身のモチーフを表現される力量は充分だと思いますので、その方面での発展も期待します。

12. 榊原観音寺 森 保信さん 8分20秒
榊原温泉が人集めに作った、観音像のオンパレード。やはり人寄せパンダ的な
仏像は、青空のもと「きれい」という感じしかうけとれません。全く別の観点
から例えば仏像に現代の小言をしゃべらすと、社会風刺がきいて面白いかも知
れません。カットがきれいなので逆にそんな事がふと頭をよぎりました。

13. おねり 江村 一郎さん 9分
さすがは江村さん。ねらう所が一味ちがいます。ポジションもあれだけ替えら
れるとカットつなぎが生きてきます。和尚の説教もふくめて前半をもう少し
「かいつまんだら」という意見がありました。足を狙うショットもすばらしい。
出来ればもう10秒程短かくすれば。カットつなぎのテンポと流れ、すばらしい
江村さんらしい作品になると思います。

14. 不発弾処理 勝 成忠さん 10分
6月14日（日）午前成人病センター研究所跡地から1屯の不発弾がみつきり
環状線を始め付近の交通を遮断し、住民を避難させて、処理が行なわれました。
日赤広報のボランティアとして不発弾吊り上げの現場を、撮影する好チャンス
に恵まれたそうです。雷管を抜く時、クレーンで吊り上げられてくる不気味な
巨体は、戦時中の悪夢を甦えらすのに充分でした。よく撮られています。

以上、9時を若干すぎた頃散会。一杯組と喫茶組に別れて二次会へ席を移し
ました。

■おわび、OMCニュース6月号の印刷ミスでページが2頁と3頁が入れ替わ
っておりご迷惑をおかけしました。おわびします。

■例会で使用のビデオデッキにノイズが発生、修理に出しました。7月例会に
は直っていると思います。今のデッキは購入後凡そ3年です。まだ買換えの
必要はないはずです。

■OMC映像フェスティバルは11月29日（日曜）13時30分よりを予定していま
す。わざわざご来場の観客の皆さんに「来てよかった、いい作品が観られた」
と喜んでもらえる作品を揃えたいものです。会員諸氏、特に新しく入会された
方々の「これぞ自信作」をモノにさせていただくようお願いしておきます。

（合原記）